

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

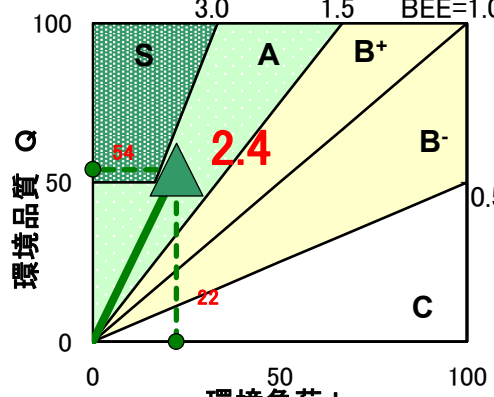
■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社トリケミカル研究所 南アルプス事業所 第1製造棟・第2製造棟・管理棟	階数	地上2F
建設地	山梨県南アルプス市	構造	S造
用途地域	地域指定なし	平均居住人員	50 人
地域区分	5地域	年間使用時間	8,160 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2025年3月 竣工	評価の実施日	2025年6月19日
敷地面積	20,440 m ²	作成者	株式会社フジター級建築士事務所
建築面積	4,574 m ²	確認日	2025年6月19日
延床面積	5,216 m ²	確認者	株式会社フジター級建築士事務所

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =2.4

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★



2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値

②建築物の取組み

③上記+②以外の

④上記+

0

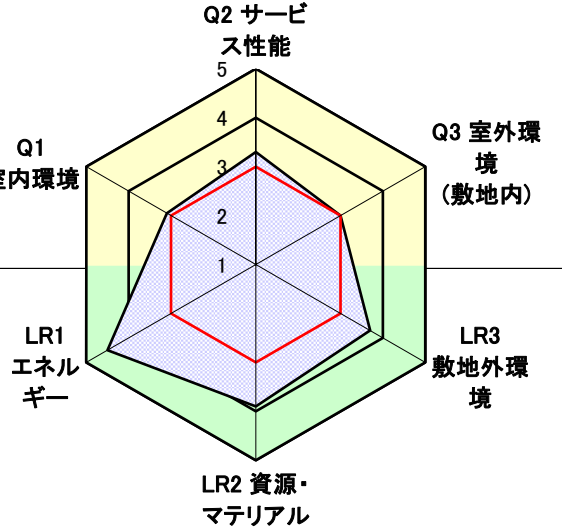
46

92

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

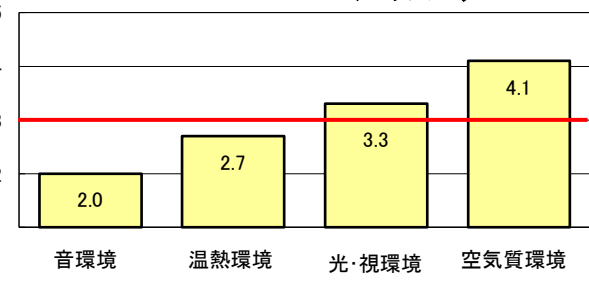


2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

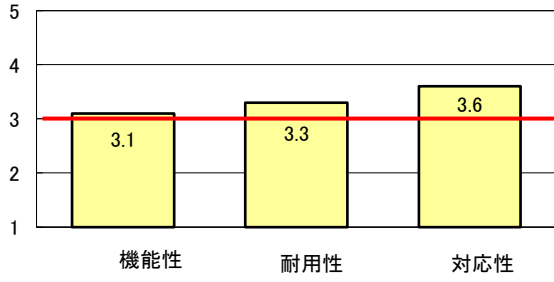
Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1



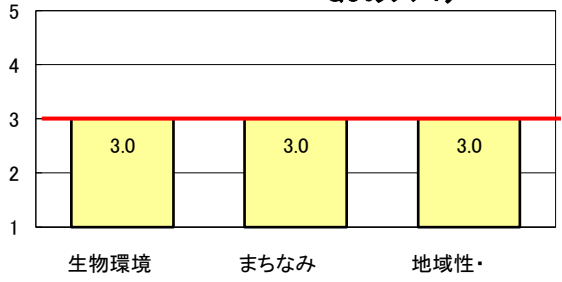
Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3



Q3 室外環境(敷地内)

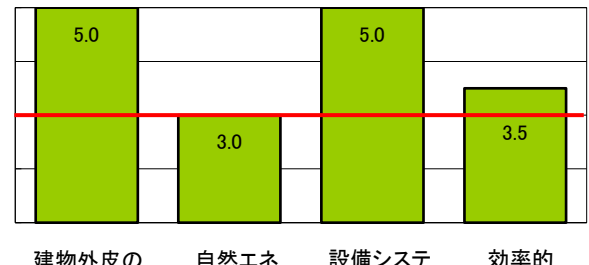
Q3のスコア= 3.0



LR 環境負荷低減性

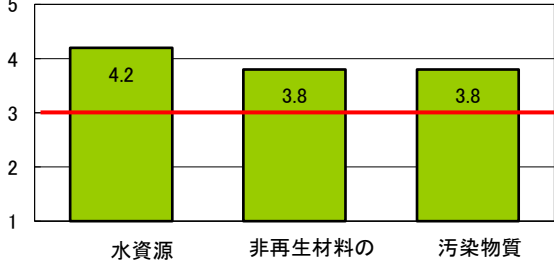
LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.5



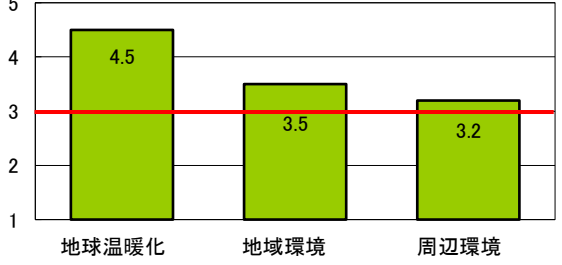
LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.9



LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.7



3 設計上の配慮事項		その他	
総合 南アルプス市との「グリーンパートナー協定」に基づき持続可能な社会の実現に寄与している。 県産木材の使用で自然を活かし、天然木の外壁で自然との調和を図っている。		-	
Q1 室内環境 断熱材の強化により外皮性能を上げるなど温熱環境に配慮している。 F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど空気質環境にも十分配慮している。	Q2 サービス性能 天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮している。 階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより空間にゆとりをもたせている。	Q3 室外環境(敷地内) 緑地を設けることにより良好な景観を形成している。	
LR1 エネルギー 断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。 高効率空調機、LED照明を採用するなど設備システムの高効率化に配慮している。	LR2 資源・マテリアル 自動水栓や省水型機器を用いるなど水資源を保護している。 ノンフロン断熱材を採用するなど汚染物質含有材料の使用を回避している。	LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO ₂ 排出率を抑制し、地球温暖化への配慮をしている。 燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

スコアシート		竣工段階						
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質								3.1
Q1 室内環境					0.32		-	3.1
1 音環境				2.0	0.15	-	-	2.0
1	1.1 室内騒音レベル	-		1.0	0.40	-	-	
	1.2 遮音			2.1	0.40	-	-	
	1 開口部遮音性能	-		1.0	0.60	-	-	
	2 界壁遮音性能	執務室:Dr-40、会議室2:Dr-50		3.8	0.40	-	-	
	3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-		-	-	-	-	
	4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-		-	-	-	-	
	1.3 吸音	天井:RW吸音板、床:タイルカーペット		4.0	0.20	-	-	
2 温熱環境				2.7	0.35	-	-	2.7
2	2.1 室温制御			3.3	0.50	-	-	
	1 室温	-		3.0	0.38	-	-	
	2 外皮性能	断熱材を強化し、外皮性能を上げている		4.7	0.25	-	-	
	3 ゾーン別制御性	-		2.8	0.38	-	-	
	2.2 湿度制御	-		1.0	0.20	-	-	
	2.3 空調方式	-		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境				3.3	0.25	-	-	3.3
3	3.1 屋光利用			3.2	0.30	-	-	
	1 昼光率	執務室:2.0%≤[昼光率]<2.5%、会議室2:2.5%≤[昼光率]		3.4	0.60	-	-	
	2 方位別開口	-		-	-	-	-	
	3 屋光利用設備	-		3.0	0.40	-	-	
	3.2 グレア対策			3.7	0.30	-	-	
	1 屋光制御	執務室:ブラインドと庇を組み合わせて制御している		3.7	1.00	-	-	
	3.3 照度	執務室、会議室1:照度500lx以上1000lx未満		3.8	0.15	-	-	
	3.4 照明制御	-		2.8	0.25	-	-	
4 空気質環境				4.1	0.25	-	-	4.1
4	4.1 発生源対策			4.0	0.50	-	-	
	1 化学汚染物質	F☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している		4.0	1.00	-	-	
	4.2 換気			3.8	0.30	-	-	
	1 換気量	換気量30㎡/人・hを確保		5.0	0.33	-	-	
	2 自然換気性能	-		3.0	0.33	-	-	
	3 取り入れ外気への配慮	会議室1, 2:空気取り入れ口は各種排気口と異なる方位で、かつ6m以上離れて設置		3.5	0.33	-	-	
	4.3 運用管理			5.0	0.20	-	-	
	1 CO ₂ の監視	-		-	-	-	-	
	2 喫煙の制御	全館禁煙としている		5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.3
1 機能性				3.1	0.40	-	-	3.1
1	1.1 機能性・使いやすさ			1.9	0.40	-	-	
	1 広さ・収納性	-		1.0	0.33	-	-	
	2 高度情報通信設備対応	-		1.7	0.33	-	-	
	3 バリアフリー計画	-		3.0	0.33	-	-	
	1.2 心理性・快適性			4.0	0.30	-	-	
	1 広さ感・景観	天井高2.7m		4.0	0.33	-	-	
	2 リフレッシュスペース	執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース+自動販売機を設置している		5.0	0.33	-	-	
	3 内装計画	建物全体のコンセプトが明確であり、内装計画に反映している		3.0	0.33	-	-	
	1.3 維持管理			4.0	0.30	-	-	
	1 維持管理に配慮した設計	維持管理に配慮した設計において、取組みが標準以上		4.0	0.50	-	-	
	2 維持管理用機能の確保	維持管理用機能の確保において、取組みが標準以上		4.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性				3.3	0.30	-	-	3.3
2	2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	-	-	
	1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-		3.0	0.80	-	-	
	2 免震・制震・制振性能	-		3.0	0.20	-	-	
	2.2 部品・部材の耐用年数			3.8	0.30	-	-	
	1 躯体材料の耐用年数	-		3.0	0.20	-	-	
	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	①第1製造棟、②第2製造棟:外壁:鋼板パネル:30年		4.3	0.20	-	-	
	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	①第1製造棟:床:塗床:20年、壁:化粧ケイカル板:30年、天井:ケイカル板:30年、 ②第2製造棟:床:塗床:20年、壁:化粧ケイカル板:30年、天井:仕上げ無し、 ④管理棟、床:タイルカーペット:20年、壁:EP塗材、ビニルクロス:20年、天井:ボード:30年		5.0	0.10	-	-	
	4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-		3.0	0.10	-	-	
	5 空調・給排水配管の更新必要間隔	①第1製造棟:上水・井水:VB、PEP:B、汚水排水:VP:B、雑排水:VP:B、冷媒:銅:C、 ②第2製造棟:冷温水:SGP白:D、上水・井水:VB、PEP:B、汚水排水:VP:B、雑排水:VP:B、 ④管理棟:上水・井水:VB、PEP:B、汚水排水:VP:B、雑排水:VP:B、冷媒:銅:C		5.0	0.20	-	-	
	6 主要設備機器の更新必要間隔	-		3.0	0.20	-	-	
	2.4 信頼性			3.6	0.20	-	-	

		1	空調・換気設備	②第2製造棟<2000㎡:熱源のバックアップを行っている、 ⑭管理棟<2000㎡:空調設備の重要度に応じて系統を区分し、災害時には重要度の高い系統を優先的に運転可能	3.4	0.20	-	-	
		2	給排水・衛生設備	節水型器具を採用、受水槽は二基設置、井水を利用している、他	5.0	0.20	-	-	
		3	電気設備	②第2製造棟<2000㎡:電源設備・精密機器の地下空間への設置を回避、 ⑭管理棟<2000㎡:電源設備・精密機器の地下空間への設置を回避、非常用発電設備を備えている	3.6	0.20	-	-	
		4	機械・配管支持方法	—	3.0	0.20	-	-	
		5	通信・情報設備	—	3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
	3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	①第1製造棟≧2000㎡:階高3.9m以上、 ②第2製造棟<2000㎡:階高3.7m以上、 ⑭管理棟<2000㎡:階高3.7m以上	5.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	0.1≦〔壁長さ比率〕<0.3	4.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性			3.4	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	ケーブルラックにより、構造部材・仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	ケーブルラック、空配管により、構造部材・仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.38	-	-	3.0
1	生物環境の保全と創出		—	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-		-	4.1
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	4.5
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.51	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		BEI _m =0.39	5.0	0.50	-	-	5.0
4	効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
	集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	運用管理の組織、体制、管理方針が計画され責任者が指名されており、建物全体のエネルギー消費量の目標値が建築主に提出されている	4.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.9
1	水資源保護			4.2	0.20	-	-	4.2
	1.1	節水	主要水栓に自動水栓などを設置し、省節水型便器を用いている	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			4.4	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用率20%以上	5.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.8	0.60	-	-	3.8
	2.1	材料使用量の削減	—	3.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生砕石RC-40:路盤材、ポリスチレンフォーム:床断熱材、RW吸音板:天井仕上材	5.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	⑭管理棟:持続可能な森林から産出された木材の使用比率:50%以上	5.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	①第1製造棟、②第2製造棟:軽量鉄骨下地により、躯体と仕上材が容易に分別可能、 ⑭管理棟:「再利用できるユニット部材」としてOAフロアを用いている	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.20	-	-	3.8
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	①第1製造棟、⑭管理棟:化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材を4つ使用している、 ②第2製造棟:化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含有しない建材を3つ使用している	4.8	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=10以下の発泡剤を用いた断熱材を使用している	4.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.7
1	地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率62%	4.5	0.33	-	-	4.5
2	地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
	2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	污水处理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	適切な量の駐輪場・駐車場・荷捌き用車両スペースを確保、出入口を複数設け周辺道路の渋滞緩和に配慮	5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	2.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	—	-	-	-	-	

		3	悪臭	—		-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40	-	-	
		1	風害の抑制	—		3.0	0.70	-	-	
		2	砂塵の抑制	—		-	-	-	-	
		3	日照阻害の抑制	—		3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制				4.4	0.20	-	-	
		1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目の過半を満たし、「広告物照明の扱い」の配慮事項の過半を満たしている		5.0	0.70	-	-	
		2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—		3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

株式会社トリケミカル研究所 南アルプス事業所 第1製造棟・第2製造棟・管理棟

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	2.0	-	○	-	-	○	-	-	-	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	6.0		○	○	-	-	○	○	-	○	○	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0		-	○	○	-	○	○	○	-	-	-	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		-	○	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	4.0	4.0	○	-	-	○	○	-	○						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	8.0		-	2.0	1.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	1.0		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	1.0	-	-	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	3.0	-	1.0	-	-	-	-	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	-	1.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	11.0		1.0	-	3.0	3.0	1.0	-	-	3.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	2.0		-	1.0	1.0	-		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

窓システムSC 0.3 窓の日射熱取得率(η)-

U値(W/m2K) 窓システム 2.9 屋根 0.2 外壁 0.5 床 -

住戸部分 窓システムU値- 外皮UA値- ηAC- ηAH-

昼光率 0.83~3.53%

自然換気有効開口面積率 -

執務スペース - /人 病床 - /床 シングル - ツイン -

コンセント容量 - VA/m²

天井高 2.7 m

リフレッシュスペース 52.9% レストスペース -

想定耐用年数 - 年

想定必要間隔 10~30 年

想定必要間隔 20 年

想定必要間隔 - 年

階高 3.7 m

壁長さ比率 0.1~0.25

床荷重 - N/m2

外構緑化指数 19% 建物緑化指数 0%

空地率 81% 水平投影面積率 6% 地表面対策面積率 15% 舗装面積率 63%

BPI/BPI_m 0.51 断熱等性能等級 対象外 相当

自然エネルギー直接利用量 - MJ/年m² 採光を満たす教室数- 採光を満たす住戸数-

通風を満たす教室数- 通風を満たす住戸数-

BEI/BEI_m 非住宅 0.39 住宅- 太陽光- 太陽熱等- 蓄電池-

雨水利用率 55.0%

特定調達品目 ポリスチレンフォームエコマーク商品 再生砕石:路盤材自治体指定品目等 -

使用比率 90.4%

オゾン層破壊係数(ODP)- 地球温暖化係数(GWP)-

オゾン層破壊係数(ODP) 0 地球温暖化係数(GWP) 3

オゾン層破壊係数(ODP)- 地球温暖化係数(GWP)-

見付面積比 34% 隣棟間隔指標R_w 5.69

地表面対策面積率 20.0% 屋根面对策面積率 0.0% 外壁面对策面積率 0.0%

見付面積S_b 1,071m² 卓越風向と直交する最大敷地幅W_s 220.7 m 基準高さH_b 13.93 m

緑地 2,403m² 水面 m² 保水性対策面 m² 高反射対策面 m² 再帰性反射対策面 m²